

ふるさとと歴史 アラカルト

岩国でのゾウフィーバー

現在は動物園やテレビ、インターネットなどで容易に見ることができ、姿形が誰でもイメージできるゾウですが、昔の日本人にとってゾウは絵本の中での存在でした。今回は、当時珍しい動物だったゾウが、岩国を通過した際の記録について紹介します。

享保13(1728)年6月、雄・雌2頭のゾウが中国人によって長崎へ運ばれてきました。2頭のうち、雌のゾウは間もなく死亡しましたが、翌年、雄のゾウは江戸幕府の8代將軍徳川吉宗に献上されることとなりました。ゾウはこれまでも日本に何度か来ていましたが、久しぶりの渡来であったことと、長崎から江戸まで陸路を歩かせて運んだことよって、国内では一つの大きな出来事として捉えられたようです。

『岩邑年代記』によると、ゾウが岩国を通過したのは享保14年4月3日から5日にかけてでした。3日には玖珂に泊まり、4日には関戸に泊まっています。長さは1丈1尺(約3.3m)、毛の色は濃いねずみ色、耳の直径が1

尺2、3寸(40cm弱)、鼻の長さが4尺余り(約1.2m)、牙の長さが1尺6寸(50cm弱)で、尾は垂れていたそうです。また餌に葛や芭蕉が使われていたことや、ゾウの一行の中には役人だけでなく、同行者として象使いが3、4人長崎から付き添っていたことも記されています。

ゾウの一行を一目見ようと、岩国でも多くの人々が見物を望む中、絵師は特別に見物を許されました。そして、これまで世に広まっていた絵本と実物が多少違っていたとして、新しいゾウの絵がこの時に数々できたそうです。また庶民だけではなく、※正理院は、お忍びで多田の称名院という寺へ出かけ、ゾウを見物したと記されています。このように、珍しい動物の来訪に岩国中が盛り上がりました。

その後、文化10(1813)年にもオランダ船によってゾウが日本に運ばれており、この時にも多くの絵師によってゾウの絵が描かれています。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)



▶文化10年に描かれたゾウ

※5代岩国藩主吉川広達ひろたかの夫人

岩国市 人口・世帯

人口 138,614人 【前月比 - 108人】 男性 65,731人 女性 72,883人

世帯 66,312世帯 【前月比 - 39世帯】 ※外国人人口を含む(平成28年10月1日現在)

交通事故発生件数 9月分事故件数 44件(353件) 死者数 0人(6人) 傷者数 52人(422人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成28年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337